

包絡分析法 (DEA) モデルの一般化

(申請中) 大阪大学 * 尹 禮分 YUN Yeboon
01401604 甲南大学 中山 弘隆 NAKAYAMA Hirotaka
01307844 大阪大学 谷野 哲三 TANINO Tetsuzo

1 はじめに

本研究では、DEA(Data Envelopment Anaysis)における基本的なモデル、すなわち、Charnesらによって提案されたCCRモデル [2, 3], Bankerらによって提案されたBCCモデル [1], データ集合のFree Disposable Hullを生産可能集合と見なすFDHモデル [5]を含むGDEAモデルを線形計画問題として定式化し、そのGDEAモデルにおけるパラメータの変化による最適値と様々なDEAモデルの効率性との関係性を比較する。

2 DEAモデル

記号の定義

DMU_j: 分析対象, $j = 1, \dots, n$
 $\mathbf{x}_j := (x_{1j}, \dots, x_{mj})^T > 0$: DMU_jの入力データ
 $\mathbf{y}_j := (y_{1j}, \dots, y_{pj})^T > 0$: DMU_jの出力データ
 \mathbf{X} : すべてのDMUの入力データ ($m \times n$) 行列
 \mathbf{Y} : すべてのDMUの出力データ ($p \times n$) 行列

ここで、Charnesらが定式化したCCRモデルとその双対問題を紹介する。

$$\begin{aligned} & \text{Maximize} && \sum_{k=1}^p \mu_k y_{ko} && \text{(CCR)} \\ & \text{subject to} && \sum_{i=1}^m \nu_i x_{io} = 1, \\ & && \sum_{k=1}^p \mu_k y_{kj} - \sum_{i=1}^m \nu_i x_{ij} \leq 0, \quad j = 1, \dots, n, \\ & && \mu_k \geq \varepsilon, \quad k = 1, \dots, p, \\ & && \nu_i \geq \varepsilon, \quad i = 1, \dots, m, \\ & && \varepsilon > 0 \text{ is a small "non-Archimedean"}, \end{aligned}$$

この問題に対する双対問題は次のようになる。

$$\begin{aligned} & \text{Minimize} && \theta - \varepsilon(\mathbf{1}^T \mathbf{s}_x + \mathbf{1}^T \mathbf{s}_y) \\ & \text{subject to} && \mathbf{X}\lambda - \theta \mathbf{x}_o + \mathbf{s}_x = 0, \\ & && \mathbf{Y}\lambda - \mathbf{y}_o - \mathbf{s}_y = 0, \\ & && \lambda \geq 0, \quad \mathbf{s}_x \geq 0, \quad \mathbf{s}_y \geq 0, \end{aligned}$$

ただし、 $\mathbf{1} = (1, \dots, 1)^T, \lambda \in \mathbb{R}^n, \mathbf{s}_x \in \mathbb{R}^m, \mathbf{s}_y \in \mathbb{R}^p$.

上の問題で、制約式 $\mathbf{1}^T \lambda = 1$ を加えるとBCCモデルになり、さらに、 $\lambda_j \in \{0, 1\}, j = 1, \dots, n$ を加えるとFDHモデルになる。

定義 1. 上記モデルにおいて、次の2つの条件を満たすとき、DMU_oは効率的であるという。そうでないとき、DMU_oは非効率的であるという。

- (i) 最適値 θ^* が1である。
- (ii) 最適解でのすべてのスラック変数 s_x^* と s_y^* が0である。

それぞれのモデルに対する効率性を比較するため、次のような生産可能集合を考える。

$$\begin{aligned} P_0 &= \{(\mathbf{y}_j, \mathbf{x}_j), j = 1, \dots, n\}, \\ P_1 &= \{(\mathbf{y}, \mathbf{x}) \mid \mathbf{Y}\lambda \geq \mathbf{y}, \mathbf{X}\lambda \leq \mathbf{x}, \lambda \geq 0\}, \\ P_2 &= \{(\mathbf{y}, \mathbf{x}) \mid \mathbf{Y}\lambda \geq \mathbf{y}, \mathbf{X}\lambda \leq \mathbf{x}, \mathbf{1}^T \lambda = 1, \lambda \geq 0\}, \\ P_3 &= \{(\mathbf{y}, \mathbf{x}) \mid \mathbf{Y}\lambda \geq \mathbf{y}, \mathbf{X}\lambda \leq \mathbf{x}, \mathbf{1}^T \lambda = 1, \\ & \quad \lambda_j \in \{0, 1\}, j = 1, \dots, n\}. \end{aligned}$$

集合 $P_l (l = 0, 1, 2, 3)$ を用いて、'DMU_oの効率性'の定義1を再定義する。

定義 2. $(\mathbf{y}, -\mathbf{x}) \geq (\mathbf{y}_o, -\mathbf{x}_o)$ かつ $(\mathbf{y}, -\mathbf{x}) \neq (\mathbf{y}_o, -\mathbf{x}_o)$ を満たす (\mathbf{y}, \mathbf{x}) が $P_l (l = 0, 1, 2, 3)$ に存在しないとき、DMU_oが $P_l (l = 0, 1, 2, 3)$ 上で効率的であるという。

注意. $l = 0, 1, 2, 3$ に対する P_l 上での効率性は、それぞれ従来のvalue free効率性、CCR効率性、BCC効率性、FDH効率性に対応している。

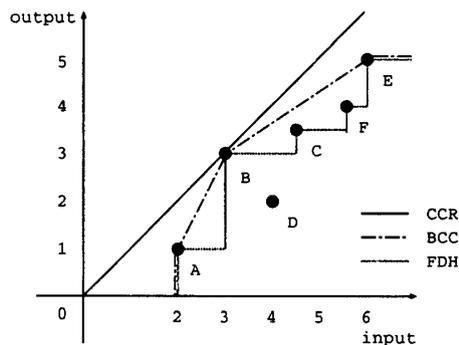


図 1. DEA models

3 一般化 DEA モデルの定式化

[6] で、提案したモデルを、実際の問題に適用するために、次のような線形計画問題を考える。

$$\begin{aligned}
 & \text{maximize } \Delta && \text{(GDEA)} \\
 & (\Delta, \mu_k, \nu_i) \\
 & \text{subject to } \Delta \leq \tilde{d}_j + \alpha \left(\sum_{k=1}^p \mu_k (y_{ko} - y_{kj}) \right. \\
 & \quad \left. \sum_{i=1}^m \nu_i (-x_{io} + x_{ij}) \right), \quad j = 1, \dots, n, \\
 & \sum_{k=1}^p \mu_k + \sum_{i=1}^m \nu_i = 1, \\
 & \mu_k, \nu_i \geq \varepsilon, \quad k = 1, \dots, p; i = 1, \dots, m. \\
 & \alpha : \text{constant}, \quad 0 < \alpha < \infty, \\
 & \varepsilon > 0 \text{ is a small "non-Archimedean"},
 \end{aligned}$$

$$\text{ただし, } \tilde{d}_j = \max_{\substack{k=1, \dots, p \\ i=1, \dots, m}} \{ \mu_k (y_{ko} - y_{kj}), \nu_i (-x_{io} + x_{ij}) \}.$$

様々な DEA モデルと α の値による GDEA の最適値との関係を調べる。

定理 1. DMU_o が P_0 上で効率的であるための必要十分条件は、十分小さい正数 α に対する GDEA の最適値が 0 であることである。

定理 2. DMU_o が P_2 上で効率的であるための必要十分条件は、十分大きい正数 α に対する GDEA の最適値が 0 であることである。

定理 3. GDEA において、 $\sum_{k=1}^p \mu_k y_{ko} = \sum_{i=1}^m \nu_i x_{io}$ なる制約を付加するとき、 DMU_o が P_1 上で効率的であるための必要十分条件は、十分大きい正数 α に対する制約の付加された GDEA の最適値が 0 であることである。

定理 4. DMU_o が P_3 上で効率的であるための必要十分条件は、十分小さい正数 α に対する GDEA の最適値が 0 であることである。

定理 1 と定理 4 より、 DMU_o が P_0 上で効率的であることと P_3 上で効率的であることが、等しいことがわかる。

4 数値例

α の値による GDEA の最適値と様々な DEA モデルとの関係を示すため、簡単な数値例をあげて考えよう。表 1 のように、1 入力 - 1 出力の DMU が、6 個がある。計算の結果は表 2 で表す。

表 1: 1 - 入力, 1 - 出力の例

DMU	A	B	C	D	E	F
入力	2	3	4.5	4	6	5.5
出力	1	3	3.5	2	5	4

表 2 と図 1 を見るとわかるが、GDEA モデルで、 α の値が小さくなると FDH 効率性が得られ、 α の値が大きくなれば BCC 効率性が得られる。さらに、制約式 ($x_o^T \nu = y_o^T \mu$) を加えると CCR 効率性と等しくなることがわかる。

表 2. DEA モデルにおいて、最適値

DMU	A	B	C	D	E	F
CCR モデル	0.50	1.00	0.78	0.50	0.83	0.73
BCC モデル	1.00	1.00	0.83	0.63	1.00	0.75
FDH モデル	1.00	1.00	1.00	0.75	1.00	1.00
(i) $\alpha = 10$ ($x_o^T \nu = y_o^T \mu$)	-12.00	0.00	-3.47	-12.67	-1.64	-4.16
(ii) $\alpha = 10$	0.00	0.00	-2.85	-11.00	0.00	-3.68
(iii) $\alpha = 1$	0.00	0.00	0.00	-2.00	0.00	-0.08
(iv) $\alpha = 0.1$	0.00	0.00	0.00	-1.10	0.00	0.00

5 結論

本研究では、基本的な DEA モデルを含む、より一般化した GDEA モデルを定式化し、その性質について考察した。CCR モデルを拡張した CCWH モデル [4] との関係調べる事が、今後の課題である。

参考文献

- [1] Banker, M., Charnes, A., Cooper, W.W.(1984): *Some Models for Estimating Technical and Scale Inefficiencies in Data Envelopment Analysis*. Management Science 30, 1078-1092.
- [2] Charnes, A., Cooper, W.W., Rhodes, E.(1978): *Measuring the Efficiency of Decision Making Units*. European Journal of Operational Research 2, 429-444.
- [3] Charnes, A., Cooper, W.W., Rhodes, E.(1979): *Measuring Efficiency of Decision Making Units*. European Journal of Operational Research 3, 339.
- [4] Charnes, A., Cooper, W.W., Wei, Q.L., Huang, Z.M.(1989): *Cone Ratio data Envelopment analysis and Multi-objective Programming*. International of Systems Science 22, 1099-1118.
- [5] Tulkens, H.(1993): *On FDH efficiency: Some Methodological Issues and Applications to Retail Banking, Courts, and Urban Transit*. Journal of Productivity Analysis 4,183-210.
- [6] Yun, Y.B., Nakayama, H., Tanino, T.(1998): *On efficiency of Data Envelopment Analysis*. Presented at the 14th International Conference on Multiple Criteria Decision Making, Charlottesville, Virginia, USA.